

滿鮮幼兒教育視察談

(承前)

(フレイベル會總會講演大要筆記)

倉 橋 惣 三

○滿洲の氣候風土と幼兒教育

滿洲の幼兒教育に於て、特に考へられなければならぬ第二の問題といふのは、氣候風土に關するそれでありませう。御承知の如く、滿洲は寒い所でありまして、毎年十一月頃から翌年の三四月に掛けての寒さといふものは、實に厳しく、北の方へ行くと零下三十度位、南の海に面した方へ行つても零下二十度位の寒さなのであります。それ故この溫度といふことは、滿洲に於て、保育上重大な關係を持つことゝなるのであります。但し、此の嚴寒に應ずるだけの防寒設備は充分出來て居まして、建物は例の露西亞式で壁が厚く、窓も皆二重になつて居ます。大きなベチカが各室にあつて、

いくらでも暖かく焚くことが出來ます。殊に炭鑛地の撫順などでは、會社から町全體へ豊富なるsteamを供給して、それが各戸で随意に調節せられませぬから、冬は却つて熱つ過ぎて、風を窓から吹き入れて息をつくといふ様なこともあるそうです。勿論、他所はこんな呑氣なことはないので、可なり防寒に意を用ゐなければならぬのですが、それでも室内は、人爲でどうとも出來ます。ところが、困るのは室外です。雪は餘り深くもないのですが、地は凍つて仕舞つて、零下何度の寒氣が肌にせまり、殊にやわらかい子供の氣管にせまつて來るのです。すなはち長い冬季の間、楽しい自由な戸外の生活は幼兒から閉ざされて仕舞ふのです。此の時、室内保育に關する、實に非常な苦心

が必要になつて來ます。殊に幼児の健康を専念する幼児運動場として、其の苦心は實に察するに餘りあるのです。室は前に申した通り、俱樂部の一室などが用ひられて居たりするのですから、室内遊戯場としての特別の設計を要求するのは無理ですし、運動具といつても、戸外のように自由な供給も出來ません。此の長い冬を、どうして積極的な、殊に健康發達に適切な保育をしようかとは、滿洲保姆諸君の共通の問題の様です。

夏季は、冬季に較べれば、極暑の間がそう長いわけではありませんから、冬季程大きな問題を喚び起して來ない様であります、それでも百度に近い炎熱は、幼児の戸外遊戯に適當のものではありません。おのづから室内が主になりませう。然るに前述の通り、冬の注意が主になつて出來て居る設備ですから、夏季の室内遊戯場としては、又種々の不便が起ります。保姆諸君は茲で又苦心せられるのであります。兎に角く、氣候より生ずる保

育上の特別な問題は、吾々平生、冬といつてもそれ程寒くなく、夏といつても、それ程暑くない中温氣候に住むもの、測り知れない處です。現に私などが、渡滿の初め、殊にそれが一番いゝ氣候の時だつたものですから、内地で考へ慣れて居る例の戸外保育の主張を、何の條件も構はずに説いたものです。後にいろ／＼氣候風土の特別な事情を聞くに及んで、自分でも其の心無しが可笑しくなつた位です。しかし、又一方から考へますと、斯く一方に幼児の戸外生活が自然的に禁遏せられて居れば居るだけ、嚴寒と酷暑との間、酷暑と嚴寒との間の、短少ながら、かけ代への出來ない大切な季節——それが、滿洲に於ける此の兩季節は又特別にいゝのですから——を充分に戸外生活に利用させるといふことが、格段の必要を生じて來ると思ふのです。

○滿洲の社會的環境と幼児教育

第三に、私の特に氣のついた問題は、滿洲の社會的環境と幼兒教育との關係です。之れは寧ろ一層逆つて、滿洲の家庭教育に於て先づ痛切に考へられて來る問題です。即ち外國人の社會生活との接觸といふこと、それも優良なる外國社會なら問題は又別になりますが、滿洲に於ては實に下等なる支那人の生活が絶えず幼兒に接觸して來るので、すから、一口に言つて仕舞へば、實に困る問題が澤山起つて來るのです。勿論、支那人の社會が皆下等なわけではありません。言ふまでもなく立派な人も立派な社會も澤山あります。しかし、滿洲の街上に無遠慮にさらし出されて居る支那人なるものは、其の不潔なることに於て、其不しだらなることに於て、其の下品なることに於て、實に甚しいものです。私は、斯ういふ連中を見て支那人一般を卑しめて仕舞ふのは甚だよくないことで、支那人の爲に甚だ氣の毒な至りと思ふのですが、事實上、これ等の連中が到所に充満して居て、幼兒

運動場の柵の傍まで來て、幼兒の環境を形づくるのは、誠に困つたことなのです。勿論滿洲の日本幼兒は、幼兒ながらに日本人といふことをよく意識して居まして、之等の支那人を自分達から、よく區別して考へては居ます。意識的に之れを眞似やうとする様のことはありません。しかし環境が無意識の中に及ぼしてゆく影響は可なり大なるものに見積らなければなりません。少くも其の反對の良き環境を有して居るものと比較すれば、其の差は二重の大きさになる譯です。茲に滿洲保姆諸君の苦心は如何ばかりかと思ひます。

ところで、斯ういふ特殊な環境から生ずる問題は、又一種の奇妙な事實を生んで居ます。即ち之等の下等なる支那人に對する一般日本人の態度から、幼兒等に早くから輕侮——兎に角く一個の人間に對する——といふ感じを持たせることです。實際、幼兒達に至るまで之等の下等支那人の群を輕侮して居ることは非常なものです。而して、之

これは實際輕侮すべきだから輕侮しても仕方ないといふ様なものですが其の輕侮が一つ通り越して弱いものいぢめといふ類の極く卑しいことや、殘忍無慈悲といふ様なことや、尙甚しきは弱者利用といふ様な一層卑しいことやを生ずる傾のないでもないのは、頗る痛心にたえないことなのです。それも支那人達の爲にか、人道の爲にかいふことを暫く措いて、先づ幼兒の教育そのもの、上から、憂慮するのです。私が或る幼兒運動場へ案内せられた時、その直ぐ附近で騒しい人ばかりで、何か聲高に言ひ罵しつて居ました。何事かと一寸立寄つて見ると、一人の若い貧しい支那人が瓜を盗んだとかいふので、日本人が呵責して居るのでした。その責め方が實に嚴しいもので、内地などではめつたに見られない有様です。太い棒がついけ様に頭上に下る。瓜盗人はひい／＼聲を擧げて泣いて居る。見物は笑つて居る。その中には子供も居ました。斯ういふことは恐らく珍らしいこと

では無いのでせう。

滿洲に於ける日本人對支那人といふ問題は、非常に大きな問題です。いろ／＼の重要な意味が、その中に含まれ、又それから生れ出る問題なのです。しかし、私は茲で此の大問題を輕々しく取扱つて仕舞ふとはしません。たゞ、幼兒の爲の環境といふ、純教育上の一問題とし、彼の地の保姆諸君の、さぞ種々お困りのことだろうといふことを思ふに止めます。

尙ほ、滿洲の幼兒運動場に關して、いろ／＼所見もあります。まづ此位に致しておいて、次に奉天で見ました支那の幼稚園のお話を一寸申し上げます。

○奉天の支那幼稚園

奉天にある幼稚園は蒙幼園といふのであります。奉天女子師範學校の附屬の幼稚園であります。初めは蒙幼院と言つたのを、後現名の蒙幼園に

改めたのださうであります。これは全然日本の幼稚園のしきうつしであります。保母は支那の婦人であります。この保母は曩きに日本から聘した山口まさ子氏に依つて、養成せられたのであります。この時に養成せられた十五名の支那婦人の保母が、奉天省内の各幼稚園に派遣せられ、その内の五人が母校に留つて、附屬の蒙幼園に、教鞭を執つて居るのであります。蒙幼園は全然日本流で、嘗ては歌も日本の歌を教へてゐたのださうであります。尤もこの頃では、支那語の歌を節は日本のまゝで教へて居るのであります。即ち此の日も「鳩ぽつぽ」や「電車の道は」や「水鐵砲」の譜の唱歌が歌はれました。建物は支那流に出来て居りまして、保母室、附添室、遊戯室、保育室及び遊園の設備があります。保母室には支那流に赤い蒲團と休息用の枕とが置いてありました。遊園には鞦韆が二つ、上下板が一つ、その他小山などが出来て居りました。遊戯室は十間四方位の室で、其處に

は支那流の裝飾が施されてあります。保育室は五つばかりありました。机の並べ方は、我國の小學校の式に似て居りました。保育室にはボールドが掲げてあり、ベビー、オルガンが備へてあります。保育方法としては矢張恩物が適用されて居りますが、同時に算術、國語などといふ小學校然たる科目も教へられて居るらしいのであります。保育室を幼児講堂と呼んで居るのにも、支那人の保育に對する考が、凡ば窺はれるであらうと思ひます。私は筆談で、保母に保育の効果を尋ねてみましたら、「行儀作法がよくなつていゝ」といふやうなことを答へました。支那の幼児教育者は、大體、斯の意味で、幼稚園の効果を認めて居るらしいのであります。

一體に支那の幼児教育方針ともいふべきものが主智的に傾いて居ります爲めに、社會としても幼児に與ふべき玩具や繪本は、極めて尠いのであります。私は奉天中探して、人に訊いたり何かして、

やつと數冊の幼兒繪本を得たのであります。是等の繪本は皆上海で出來たものであります。支那の小兒は皆少し大きくなると、大人の讀む小説などを讀んで居るのであります。因に支那には保育に關する著書がたゞ一冊あります。それは前に申上げた山口まさ子氏の保育講義を漢譯したもので、「保育學」と名けて出版せられて居ります。

○ハルピンの幼稚園

私は茲まで來た序に一寸でも露西亞人の經營して居る植民地教育が見たいと思ひまして洽爾賓まで行つて見ました。殊にハルピンには幼稚園があると聞いて、それを見たいと思つたのでした。しかし相憎、私の目指して行つた幼稚園は、丁度他へ引移るところでありましたので、親しく保育の實況を視察することは出來ませんでした。でも折角來たものだからといふので、その新築中の幼稚園の保姆と話をして來ました。保姆といふのは鐵縁の

眼鏡を掛けた若い露西亞の婦人でした。獨逸語で話をしたのでありますから、露西亞式の意味が正しく現はれて居るか何うかと思ふのですが、先づ大體は十歳位まで教育する處らしく所謂讀み書き等の六ヶ敷いことを教へて居るらしいのであります。兎に角、我が國の幼稚園に比して著しく智識的であるらしく私には思はれたのであります。

○京城の幼稚園

朝鮮には、たゞ京城に居たゞけでありましたから、あまり多くを見聞することが出來ませんでした。朝鮮には京城を始めとして、仁川、群山、釜山其他の各地に、幼稚園が設けられて居ります。しかし是等の幼稚園は、全部私人の經營に係るものであります。公立の幼稚園は一つもありません。朝鮮の教育制度の中には、幼稚園といふものが、設定せられて居ないのであります。京城で見た幼稚園は、朝鮮人の幼兒の爲の幼稚園と、内地か

ら行つて居る日本人の幼児の爲の幼稚園と二つ見
 ました。前者は京口さだ子氏、後者は大和田りよう
 子氏が主任で、朝鮮人幼稚園の方には年若い一人
 の朝鮮婦人が保母として従事して居られるのが、
 非常に心うれしく思はれました。

以上甚だ簡略なお話で、何の御興味をもひかぬ
 ことと思ひますが、先づ見て來ました丈けの大體
 の筋だけを申し上げました。終りに、彼の地の幼
 兒教育の益々發展することを祈り、また私一個と
 しても彼の地幼兒教育者諸君の健在を祈るのであ
 ります。

(此の講演は、後に充分筆を加へて、滿鮮幼兒教育界の状況を
 詳かにし、又幼兒教育者諸君の御盡力の有様を充分委しく紹介
 したいと思つたのでありますが、其の暇がありませんで、こん
 な粗雑なお話のまゝを掲載しました。私として甚だ遺憾である
 のみならず、彼の地諸君にも甚だ相濟まぬことと思ひます。倉
 橋生)

師走七句

何に此師走の市へ行からず	芭蕉
隠れけり師走の海のかいつむり	芭蕉
山伏の見事に出たつ師走かな	嵐雪
世の中は胸から上の師走かな	如行
しまうたるあと日の長き師走哉	而得
市に入てしはし心をしはず哉	素堂
町中の師走にましる雀かな	乙由